

2020年12月期第2四半期業績予想の公表に関する質疑応答(2020年5月29日)

<CEO/柴田挨拶>

本日はご多忙のところ、ご参加いただきましてありがとうございます。

4月27日の第1四半期のアーニングズのコールのときに、あまりにも不透明性が大きくて、通常ならご提供するガイダンスをご提供できませんというお話をしました。

そして、その際に、売上の発射台はQ on Qで6%ぐらい下がることを見込んでいて、それに加えて生産要因のダウンサイド、それから需要要因のダウンサイドがあり、そちらがクオンティファイできませんというお話をしていました。

それから、おおよそ1カ月強たち、この第2四半期も残すところ1カ月強という状況になりましたので、概ね見通しは立ったところで、皆様に今日、初めてガイダンスをご提供することにしました。

ご覧になっていただいていると思いますが、結果としてレベニューは、シーケンシャルに12%強のダウンを見込んでいます。ミッドポイントで1,565億円ですね。ともにNon-GAAPで、ミッドポイントのグロス-marginで46.5%、オペレーティング-marginで14.0%、の水準を見込むに至りました。

今回のレベニューのダウンは、ほぼすべてオートモーティブで起こっています。オートモーティブはかなりの部分で、自社工場でまだ物を生産していますので、どうしても生産のアジャストメントが、少しタイムラグが発生することによって、今回、ご提供しているmarginのミッドポイントでは、言ってみれば、少しmarginの先食いのようなことが起こっています。

過去のようなイメージとはちょっと違って、もともとBCMストックを積み増そうという意図があったということと、必然的に生じるタイムラグによって、大体250ベースポイントぐらいmarginが上積みされているというふうを受け取っていただければいいかなと思います。

こちらの数字は、第2四半期以降、第3四半期、第4四半期にかけて、当然、生産の調整を行っていきます。その中で、今度は、反対に数字が出て、年間を通して調整されるような動きになるということをお含み置きいただければよろしいかなと思っています。

<質問者 1>

Q: 二つ、お願いします。まず、最初がウエハーベースでの投入ベースの稼働率です。4~6、そして7~9月に向けて、おそらく夏休みが毎年1週間ぐらいあると思います。ここの稼働の休止のさせ方などのオペレーションをどういうふうにマネージされるか。7~8月に向けて、最初、ガイダンスください。お願いします。

A: (柴田) 冒頭にお話しした要因によって、当初、私たちがもともと持っていた工場の稼働のスケジュールに対して、少し停止の期間を延ばそうと思っています。イメージとしては、昨年行った生産調整と同じようなものを想定いただければ結構かと思っています。

タイミング的には、去年とはずれも生じてきますけれど、この第2四半期まで、ファーストハーフにおける生産の調整幅としては、もちろん濃淡はいろいろ違うのですが、全体観で申し上げますと、大体昨年並みぐらいの生産調整を行おうかと考えています。

新開さん、もし補足があればお願いします。

(新開) 投入ベースの稼働率について申し上げますと、第1四半期が概ね60パーセント半ばぐらいでしたが、第2四半期は、そこから十数パーセントポイント、下がるような計画を今のところ見込んでいます。以上です。

Q: ありがとうございます。二つ目です、今今6月に入る手前にありますけども、お客さんのオーダーの動きが落ち着いて、むしろ上がってくるような動きがあるのか、それとも、従前よりちょっとタイムラグがあるので、まだ7~9月に向けては、かなり目線が下がるような形で、Q on Qで見えているのか。車だけではないかもしれないですけども、全体観、7~9月に向けての方向性をお願いします。

A: 車以外の分野は、かなりソリッドに見えています。この第2四半期は、少し特殊な要因、過去のEOLに伴う一時的な売上等があったりしたので、それに比べるとその分がはげ落ちるかなと第3四半期を見えています。いずれにしても、かなりソリッドに推移をしていくと見えていますし、バックログのカバレッジも非常に厚いというか、カバレッジ高く入ってきますので、あまりオート以外のところについては、心配する状況にはないと今考えています。

一方で、オートモティブは、非常にまだ見通しがしづらいというのが正直なところで、見通しを申し上げられるようになるには、もう少し時間が必要かなと言わざるを得ません。ただ、現在まで、今日、申し上げられるベストでいうと、第2四半期を底に第3四半期が上がっていくとはまだ

受け止められていなくて、底を這っていくか、場合によってはもうちょっと弱含みかという感じがしています。

ただ、繰り返しになりますけれど、本当の意味で方向観を申し上げるには、まだ時間が早いので、そこはご容赦いただきたいと。同時に、このような状況でもありますので、可能な限りオーダーのリードタイムを長く取って、予見可能性を高められるようにする努力を始めているところです。以上です。

Q: つまり1カ月前との比較で言うと、1カ月前ですと、まだ7~9月に向けて下がる怖さをかなり感じたのですが、今もあまり落ち着いてないというか、まだ下がっていく予想がもう一段、まだ落ち着いてないというか、そういった見え方をされているってということですか。

A: イエス&ノーですね。ご記憶にあるかもしれませんが、1カ月前の時点では、第2四半期の数字が本当に分からなかったのです。なので、ベースラインの数字としては当然、本日ご提供したガイダンスよりも随分高い数字をご提供していました。

それとの比較感でいうと、第2四半期から第3四半期にかけて相当落ち込むだろうなっていうようなビューでいたのですが、当然今回、第2四半期でそれなりに調整がもう入っているので、ここから第3四半期にかけての、落ちたとしても落ち幅は、1カ月前に思っていたよりは、それは当然ずいぶん小さくなっているということだろうと思っています。

<質問者 2>

Q: ごめんなさい、1点目、聞き漏らしてしまって。冒頭、柴田さんのほうから、第2四半期で利益率の先食いがあるというふうに、定量的な数字も含めておっしゃっていたと思うのですが、どれくらい先食いしているのかという数字の確認をさせていただいてよろしいでしょうか。

A: はい、250 ベーシスポイントぐらいと申し上げました。

Q: ありがとうございます。二つ目の質問です、今回、下期から在庫の調整に入る可能性がありますということで、去年おとし、在庫の調整局面であったかと思うのですが、そのときも調整入りしながらも、なかなか調整の解消に手間取ったと記憶しています。

今回の調整局面においては、前回と何か違ったアプローチをすることで、調整を速やかに終えることができるのかどうか。前回の調整局面と今回とで変わってくる取り組みがありましたら、ご紹介いただければ幸いです。以上です。

A: 前回と違ったというか、前回の調整に際して、いくつかやり方を変えた、取り組み方を変えたことがあるということ、前回は前々回かのお話をしたと思います。サプライとの関係と、それから私たちの内部の意思決定の関係と、それから販売先との関係について、それぞれこんなことをやりましたというお話をしました。

先ほど申し上げましたが、それに付け加えて、もう一段、販売先との関係において、もう少し改善できないかということ、今、考えています。それについては、遅滞なく取り組んでいきたいと考えています。

それ以外のところは、さらに何か追加的にやることは、今のところ必要ないかと思っています。前回のように、外からご覧になって、もたついているというようなことにはならないと思います。

ただ、繰り返しになりますが、今現在、これほどデマンドが下がってどうかというのはありますけれど、できる限り、特にノンオートのところを中心にして、オポチュニティロスがないようにしたいということ。それから、もちろん、ものによって相当濃淡あるのですが、BCMのストックに関しては、しっかり特に積んでおかないと、今回みたいなことがあると、またサプライショータージになったら困るという観点。

それと、オートモーティブについて言うと、実は今回シーケンシャルに相当数字が全体としては下がっていますが、例えば R-Car と SoC だけをご覧いただくと、下げ幅は非常に小さいです。新しいジェネレーションがランプアップしてきます。そういったものは良くも悪くも TSMC からソースをしているので、リードタイムが長いです。

そういったところについては、多少、在庫の積み増しを受け入れていても、トップラインに少しでも貢献するというような力点の変化を実行していきますので、在庫については上がったりがったりは、クォーター単位ではどうしてもありますけど、今回は分かった上でやっているのご覧いただくと幸いです。以上です。

<質問者 3>

Q: 少しアプリケーション別のカラーをいただきたいのですが。1カ月前に見たときと下がっているのは、今までのディスカッションですと、自動車の主が下がっていて、それ以外はそうでないという印象を受けたのですが、大きく調整しているのは自動車だけだという理解でよろしいでしょうか。

A: 結構です。

Q: 二つ目のところが、その先の見通しのところなのですからけれども、前回のときにステイホーム需要とか、一時的な需要があるのではないかというお話をされていたと思うのですけれども。それについては、やはり第1四半期で終わって、第2四半期以降、自動車とともにそちらも在庫調整に向かうとお考えでしょうか。例えばFAとか多分、医療機器とか、家電系のところでそういうのがあるのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

A: まさに重要なポイントで注意深く見っていますが、少なくとも第3四半期ぐらいのタイムホライズンで言うと、何か反動減みたいなものが、大きく入ってくることはないだろうなと思っています。

どちらかと言うと、ヘルスケア等よりは、むしろ大きく上がって大きく下がるのではないかと考えているのは、端的に言うとPCのようなタブレットのようなものなので、そこは注意をして見ていきたいと思っています。第2四半期に関して言うと、まだまだ多少強含みで入っています。一旦、以上です。

Q: ありがとうございます。最後に、旧IDTの製品のところで、データセンターとか基地局向けのところがどうなっているのかのアップデートをお願いします。

A: IDT、それからインターシル、そこはほぼ同じ動きですが、データセンターは変わらず強いです。

大きく言うと、オートモーティブ以外はほとんど変わっていませんということを申し上げました。第2四半期の話をしていますけれど、実は1カ月前に持っていた見通しに比べると、本日時点で持っている見通しが、主にデータセンター中心、一部基地局で、さらに強く入っています。

なので、シナリオとしては全然変わってなくて、数字としては少し前回より強含みで動いているというのが足元の状況です。以上です。

Q: すみません、フォローアップですけど、それについては、持続性はどういうふうに考えていますか。データセンター需要は上振れているので続くような気がして一時的とは考えてないのですが、いかがでしょうか。

A: 大きくはそうだと思います。一部報道で、特定のハイパースケイラーがCAPEXを落とすのではないかなんていうような記事もあったりしたので、かなり注意深くカラーは拾っていますけれど、今日の時点で言うと、あんまりデータセンター、それからベースステーションともにネガティブな要因は見つかっていないので、このままいってくれるのではないかなと期待はしているところです。以上です。

<質問者 4>

Q: 質問、二つございます。一つは、実際のこの数字を見させていただきますと、営業利益率が14%。前は確か7%ぐらいしかなかったような記憶があるのですが、それに対して営業利益率が上がったということは、何か大きなコストカットをされたのでしょうか。これが第1の質問です。

次の質問は、車は特に欧米のほうですが、3月は操業停止していた様々な車メーカーがたくさんいました。4月に入ってからは、4月の中頃からは、ほぼ皆さん動き始めた、稼働し始めてという状況が来ているのに、なぜ第2四半期は急激に車が悪くなったのか、そこがまだ理解できないので教えてください。この二つの質問です、よろしくお願いします。

A: 1点目は、恐らくGAAPの数字とNon-GAAPの数字を比較されているのではないかと受け止めました。ですので、ご覧になっている数字がアップル・トゥ・アップルになってないと思いますので、ご確認いただければと思います。

2点目は、そんなに自動車の工場は順調に立ち上がってないと思います。立ち上がり始めているところはありますが、かなり低稼働で、相当スローに立ち上がっているというのが実態だと思います。

特に日本の工場についていうと、欧米の工場よりもシャットダウンの時期自体がかなり後ろにずれていましたので。今、私たちのデマンドに大きな調整が入っていることは、いろんな角度から検証していますが、実はあまり違和感がないと受け止めています。一旦、以上です。

Q: 分かりました、ありがとうございます。そうすると、自動車は特に、御社の場合は海外向けよりは国内向けが多いのでしょうか。

A: 国内が5割を少し下回るぐらいなのですが、ご案内のとおり、自動車メーカーさんは国内で作った物を海外に輸出したりしています。生産地、需要地としては、国内向けが半分を少し下回る程度ですが、おそらくエンドの需要でいうと、もうちょっと国内向けは少ないでしょう。当然、日本の自動車の販売台数は、そんなに世界の中で大きくないので、欧米、中国がともにすごく大きいと考えていただければ正確かと思っています。以上です。

<質問者 5>

Q: 細かいところかもしれないですけども、オートモーティブで、先ほどR-Carなどの先端品は比較的伸びているというようなお話でした。オートモーティブの中での、例えばこういったものは調子が良くて、こういったものは悪いというようなアナウンスがあれば教えてください。

A: 先ほどお話しした SoC が、例えば相対的にはいいです。それから EV に使われる IGBT も相対的にはいいです。それから、いいとは言いきませんが、マイコンの中でも新しい世代のものは相対的には落ちが少し小さいと言いますか、そんなところです。

大きく申し上げると今、ランプアップしている SoC と IGBT を中心に落ち幅が小さくて、それ以外は大体、車の台数見合いで落ちているとお考えいただくといいかなと思います。以上です。

Q: なるほど。じゃあ、車の台数見合いで落ちているぐらいのものが大体で、ところどころ、それよりちょっといいのがあるかなというような考えでよろしいでしょうか。

A: 概ねそれで結構だと思います。

<質問者 6>

Q: 4 月末の決算会議のときに、コミットメントラインの拡充の話を検討するとおっしゃられていましたが、現状どうなっていますでしょうか。アップデートをお願いします。

A: メインバンクの方々とは、協議を続けておりまして進捗しております。個別な内容については、ここでは控えさせていただきたいと思います。以上です。

Q: 分かりました。あともう 1 点、同じく 4 月末のときに売掛金の流動化等含め、手元資金確保していくというお話がありましたけれども、こうした細々したもの含め、どの程度の金額を確保しようということを考えていらっしゃいますか。

A: 4 月末にプランしていたものを今、順次実行していっているところですが、そこから見通しとしては、大きくは変わらないかと考えています。以上です。

<質問者 7>

Q: 1 点、お願いします。Non-GAAP の粗利のミッドポイントのガイダンスと、Non-GAAP の営業利益率のミッドポイントのガイダンスから逆算しますと、第 2 四半期の販管費が、概ね第 1 四半期並み 509 億円ぐらいになるかと思います。

例年、御社の販管費、第 2 四半期、第 4 四半期に増える傾向があると思いますが、今年はほぼ Q on Q フラットということだと思います。第 1 四半期のコールのときに、前広にコスト・キャッシュ・マネジメントに取り組むということでしたけれども、何かご披露いただけるようなコストの抑制、コントロールの策をされているのでありましたら教えてください。以上です。

A: ご指摘のとおり、OPEXについてはQ on Qでフラットと見込んでおります。中身について少し補足すると、R&Dが1桁増で、SG&Aが1桁減というミックスで、都合フラットというものです。

ここからお分かりいただけるように、特にG&Aの細々としたスペンドを中心にもうコントロールを始めております。その効果が、このQ on Qの動きに表れているかなと思います。以上です。

以上